

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 特集 東日本大震災から 1 年
- 8 第 12 回奥州前沢劇場「算豪の道～和算と人心の物語～」 グラフ
- 9 第 28 回奥州胆沢劇場「ふるさとの香り」 グラフ
- 10 放射線量測定マップの運用を開始
- 11 農作物から放射性物質の影響を減らす対策
- 12 介護保険料と介護サービス利用料の減免
- 13 医療機関の窓口負担の免除期間を延長
被災者生活再建支援金の申請期限を延長
- 14 污水处理施設使用料を変更
- 15 市の出来事から
- 16 まちの話題
- 18 つながれ 広がれ NPO の輪
- 20 子そだて広場
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
- 21 消費生活相談 Q & A
わが家のアイドル
子ども喜ぶ人気メニュー
- 22 キラリ人輝く
夢トーク
- 23 クラブ紹介
ぼんたのつぶやき
- 24 くらしの情報
- 28 奥州遺産

〈今月の表紙〉



全日本農はだてのつどい（いさわのまつり実行委員会主催）が 2 月 11 日、胆沢野球場特設会場で開催されました。庭田植再現や大臼福餅つき、福俵引きなどが行われ、五穀豊穡と農作業の安全を祈願しました。

写真は子どもたちによる福俵キャッチの 1 コマ。高さ 8 尺のクレーンから落とされる福俵をキャッチしようと、子どもたちは懸命に雪の上を駆け抜けていました。



愛車のハンドルを握り、今日も走り続ける善子さん

バックホーやローダーなど大型重機が発する大きな土音が響きわたる建設現場。男の世界と思われるこの現場で、10 シダンブを操る千葉善子さんは、昭和 46 年に 3 人姉妹の次女として生まれた。中学校ではバドミントンに打ち込み、県大会でも活躍した善子さん。保育士になる夢を抱いて高校に進んだが、挫折。『うちで働け』との父の言葉に従うより、他はなかった——と、15 歳でこの道に進んだ理由を語る。

18 歳になると重機の免許を取得、翌日から現場に送り出される。来る日も来る日も採石場で、岩を砕く毎日だった。23 歳で大型免許を取得、次の日には 10 シダンブで現場へ。「ダンブの操作の仕方も分からなかった」と、当時を振り返る。以来、姉と妹と共に男社会の中でがむしやりに走り続けてきた。長女の出産直後には、運転席で母乳を搾ったことも。



ダンブドライバーは 自分に定められた運命の道

千葉 善子さん（40 歳）
前沢区駅東一丁目



ちば・よしこ◎昭和 46 年前沢区駅東一丁目生まれ。㈱丸正興運役員・ダンブドライバー。平成 24 年奥州前沢厄年連風雅孩童会祭典副実行委員長を務める。家族は、夫、1 男 2 女と父